

概

況

概況

1. 取扱高

(1) 年間取扱高

平成6年中(1月5日から12月30日、開市日数 272日)の総取扱数量は、762,829 tで前年比 97.5%と前年を下回り、総取扱金額は、712,947百万円で前年比 95.3%と前年を下回った。総平均価格は 935円で、前年に比べ21円安となった。取扱数量では、鮮魚は、サバ、輸入メバチなどが増加したが、カツオ、スルメイカ、マイワシなどが減少となり、全体では 1.2%減となった。活魚は、活カンパチ、活アナゴなどが増加し、全体で 2.1%増となった。冷凍魚は、印度マグロ、キンサケなどが増加したが、本年も全般に減少し、全体では 5.4%減となった。加工品は、シラス干、開干アジなどが減少し、全体では、1.2%減となった。取扱金額では、鮮魚は 2.9%減、活魚は 4.1%減、貝類は 3.1%減、冷凍魚は 4.4%減、淡水魚は 4.3%増、海藻類は 6.1%減、加工品は 7.1%減となった。平均価格では、鮮魚は 1.7%安、活魚は 6.0%安、貝類は 1.3%高、冷凍魚は 1.0%高、淡水魚は 2.5%高、海藻類は 7.1%安、加工品は 5.9%安となった。

(ア) 生鮮品

鮮魚の取扱数量は 184,057 tで、前年比98.8%とやや減少し、平均価格は 1,014円で、前年比18円安となった。主要品目で見ると、前年大豊漁だったカツオは、入荷が 2.7割減となり、平均価格が 100円高となった。マイワシの入荷は 1割減も、平均価格は、4円安となった。マグロ類は、輸入マグロが 2.5割増、国内物が 4.4割増、メバチは輸入物が 3.3割増に対し国内物が 2.5割減、キワダ(国内)が 3.1割減、メジが 3.8割増となり、全体では 1.4割増となった。平均価格は、214円安となった。スルメイカは 1.2割減で、平均価格は42円高となった。マアジは前年からわずかに増加し、平均価格は、53円安となった。養殖ハマチは前年並の入荷で、平均価格は 127円安となった。活魚の取扱数量は13,902 tで、活カンパチ、活アナゴなどが増加し、前年比 102.1%となった。平均価格は 1,771円で、114円安となった。生鮮貝類の取扱数量は、50,613 tで前年比 95.1%となった。平均価格は 931円で、7円高となった。主要品目で見ると、アカ貝が 0.5割減で 5円安、アサリは 0.9割減で28円安、アワビは前年並の入荷も 363円安、トリ貝は 0.6割増で 8円高、アオヤギは 0.7割増で47円安、ムキカキは 0.7割減で 108円高、ムキホタテ貝は 1.8割減で 174円高となった。生鮮淡水魚の取扱数量は 3,812 tで、前年比 101.7%と増加し、平均価格は 1,402円で、34円安となった。主要品目で見ると、アユが 0.5割増で、61円安となった。ウナギが 0.5割減で 337円高となった。

(イ) 冷凍品

冷凍魚の取扱数量は 214,511 tで、前年比94.6%と減少し、平均価格は 1,021円で、前年比10円高となった。主要品目で見ると、冷エビ類は、インド物の 5.1割増、フィリピン物の 0.7割増に対し、中国物が半減、タイ物が 2.4割減、インドネシア物の 0.5割減などとなり、全体では 0.6割減となった。平均価格は 1,559円で、前年比45円高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 1.1割減少したが、全体では 0.3割増となった。平均価格は 652円で、前年比42円安となった。冷イカ類は、国内スルメが 2.3割減少し、全体でも 0.7割減となった。平均価格は 651円で、59円高となった。冷マグロ類は、印度マグロは 3.3割増だが、主力の冷メバチが 0.3割減などで、全体では前年並みとなっ

た。平均価格は 1,587円で、前年比 144円安となった。その他の冷凍魚では、冷タコが 0.7割減で、平均価格は96円高となった。冷スリミは 2.8割減少して、平均価格は 9円安となった。冷凍貝類の取扱数量は 5,740 tで、前年比 101.7%となった。平均価格は 1,262円で、前年比34円高となった。主要品目で見ると、冷ホタテ貝は 0.9割増で、平均価格は 116円高となった。冷アワビは 2割減となり、平均価格は 552円安となった。

(ウ) 加工品

加工品の取扱数量は 282,461 tで、前年比98.8%と減少した。平均価格は 779円で、前年比49円安となった。主要品目で見ると、焼物製品は、蒲焼ウナギが 1.2割増となり、全体でも 0.8割増となった。平均価格は 1,920円で前年と同じであった。塩干品は、開干アジが 0.4割減となり、全体でも 0.3割減となった。平均価格は 502円となり、27円安となった。塩蔵品は、塩アキサケが 1.2割増、塩ベニサケが 0.6割増、スジコが 2.2割増であったが、塩シロサケの 1.8割減など、全体では 0.2割減となった。平均価格は 1,438円で 191円安となった。煮干製品は、シラス干が 1割減、煮干イワシが 1.2割減、コウナゴが 1.2割増で、全体では 0.7割の減となった。平均価格は 1,283円で、60円高となった。

1月

☆鮮魚 取扱数量 12,532 t (対前年比 93.0%)
平均価格 1,194円 (" 76円高)

取扱数量では、メバチは、輸入物が 4.0割増、国内物が 3.9割減、マグロ(輸入)が 2.6割増となった。メジは4.9割減となった。サバは順調な入荷で 2.8割増、スルメイカは産地での水揚げが振るわず5割減となった。マタイは養殖物が 2.6割増、輸入物が 2.1割減、ハマチが 1.5割減、サンマも 1.7割減となった。平均価格では、マグロ(輸入)が 1.5割安、メジが 2.0割高、キンメタイが 0.7割高、カツオが 0.5割高となった。メバチは、国内物が 1.5割高、輸入物も 1.7割高、キワダ(国内)は 2割高となった。サバは 3.1割安、スルメイカが 6.5割高、ハマチも 1.6割高、マタイ(養殖)が 0.5割高、マイワシが 1.4割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,088 t (対前年比 108.2%)
平均価格 1,659円 (" 122円安)

取扱数量では、活マタイが 1.9割増、活アナゴが 1.7割増となり、活ハマチが 1.6割増、活ヒラメが 0.5割増、活カンパチが 0.7割減となった。平均価格では、活ハマチが 1.5割高、活タコが 1.3割高、活スズキが 1.7割安となり、活マタイが 1.5割安、活シマアジが 1.4割安、活アナゴが 0.8割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,947 t (対前年比 107.4%)
平均価格 966円 (" 83円高)

ムキホタテ貝、カキ、アサリ等が減少したが、全体では増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 15,513 t (対前年比 103.4%)
平均価格 968円 (" 99円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチの増加もあり全体で 0.7割増となった。冷イカ類は、スルメイカは、国内物が前年の 2.4倍、SA物も 8.3割増となり、全体では 2.7割増となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 6.1割減となり、全体でも 2.1割減となった。冷タイ類は 2.3倍増、冷エビ類は、アカエビの9.5割増など、全体でも 1.4

割増、冷カニ類は、煮ズワイの 4.3割減など、全体では 2割減となった。サバは 4.3割増、冷タコは 2.9割増、冷ギンタラ 2.6割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが 1.4割安、メバチ 1.3割安など、全体でも 0.9割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.6割安で、全体でも 2割安となった。冷イカ類は、スルメイカ（国内）が 4.3割高となったが、全体では 0.4割安となった。冷タコは 2.8割安、冷サバが 2.3割安、冷スリミが 1.7割安、となった。

☆加工品 取扱数量 19,961 t（対前年比 105.3%）
平均価格 717円（ “ 66円安）

取扱数量では、塩蔵品や塩干品は、ほぼ前年並み、湯煮品が 1.9割増、練製品も 0.9割増となった。平均価格では、塩蔵品は、スジコが 2.9割安、スケコが 1.2割安で全体は 1.8割安となった。煮干製品は、シラス干が 1.4割高となったが全体では 0.5割安となり、切身加工品も 1割安となった。

2月

☆鮮魚 取扱数量 12,754 t（対前年比 91.8%）
平均価格 1,140円（ “ 10円高）

取扱数量では、マグロは、国内物が 1割増、輸入物が 2.8割増、メバチ（輸入）が 6.2割増となったが、メジが 5.3割減、メバチ（国内）が 3.1割減、キワダ（国内）が 2.4割減となった。サバは、入荷が順調で 8.5割増、キンメタイは 2.0割増、マタイ（養殖）が 0.9割増となった。漁の不調が続くスルメイカは 6.2割減、ハマチが 2.7割減、マイワシは 0.7割減となった。平均価格では、メバチ（輸入）が 1.8割安、メジは 1.1割高、スルメイカは 5割高、ハマチが 1.5割高となり、サバは 3.7割安、カレイ類が 0.9割安、マタイは養殖物が 0.9割高、他は 3.5割安となった。

☆活魚 取扱数量 994 t（対前年比 100.4%）
平均価格 1,761円（ “ 50円安）

取扱数量では、活アナゴが 0.9割増、活マタイと活ヒラメが前年並み、活タコは 1.7割減、活カンパチが 0.9割減、活ハマチは 0.6割減となった。平均価格では、活ハマチが 1.2割高、活アナゴが 1.7割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,716 t（対前年比 98.1%）
平均価格 931円（ “ 47円安）

アサリが 1割減、シジミ、アカ貝が 0.6割減少し、全体でも 0.2割減となった。

☆冷凍魚 取扱数量 17,584 t（対前年比 95.2%）
平均価格 893円（ “ 90円安）

取扱数量では、冷サバが 4.8割増、冷ギンタラが 5.3割減、冷サケ・マス類は、ベニサケの 3.3割増から、全体で 2.6割増となった。冷イカ類は、モンゴウイカが 8.4割増、スルメイカ（国内）が 2.3割増となり、全体でも 0.5割増となった。冷マグロ類は、印度マグロが 0.7割減となるもメバチが 0.52割増で、0.3割増となった。冷カレイ類は、3.3割減になった。冷エビ類は、アカエビの 2.4割減もあり、全体でも 1.2割減となった。冷タイ類は、4.6割減、冷タコは 0.8割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、印度マグロが 0.3割高になったものの、その他全般に値を下げ、全体でも 1.2割安となった。冷イカ類は、モンゴウイカが 1.4割安のほかは、スルメイカ（国内）の 2.3割高、ムキイカの 0.8割高など値を上げ、全体でも 1.7割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.2割安、シロサケの 2.2割安など、全体でも 2.6割安となった。冷カレイ類は 2.3割高、冷サバが 3.3割安、冷タコが 2.6割安、冷タイ

類が 1.1割安となった。

☆加工品 取扱数量 21,724 t（対前年比 102.1%）
平均価格 709円（ “ 85円安）

取扱数量では、練製品は、揚物、チクワなどの増加から 0.9割増となった。塩蔵品は、塩ベニサケが 5.5割増、スジコが 4.1割増であったが、塩シロサケの 5.9割減など、全体でも 1割減となった。その他も、煮タコが 3.8割増、開干サバが 2.3割増となった。平均価格では、塩蔵品は、塩シロサケが 3.2割高になったものの、塩アキサケが 3.9割安、イクラが 3割安、塩ベニサケの 2.5割安など、全体で 2.9割安となった。煮干製品は、シラス干が 2.7割高などで、全体で 2.8割高、塩干品と切身加工品がそれぞれ 0.9割安となった。

3月

☆鮮魚 取扱数量 14,214 t（対前年比 91.1%）
平均価格 1,144円（ “ 5円高）

取扱数量では、マグロ（輸入）が 5割増、メバチ（輸入）が 2.2割増、キワダ（輸入）が 1.7割増となったが、国内物は、マグロが 1.3割減、メバチが 4.1割減、キワダが 1.3割減となった。メジは 8.4割減となった。サバは依然好漁で 4.6割増、マイワシは 0.7割ながらようやく前年を上回った。漁の不振が続くスルメイカは 5.1割減、カツオは北上が遅れ 4.1割減、ハマチは 2.2割減となった。平均価格では、メジが 3.6割高、キワダ（輸入）が 2割高、カツオが 2.5割高、スルメイカが 2.3割高となった。サバは 3.7割安、マグロ（輸入）が 1.5割安、マアジと、マイワシは 1割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,216 t（対前年比 103.8%）
平均価格 1,806円（ “ 160円安）

取扱数量では、活カンパチが 0.5割減となったが、主要品目である活アナゴが 1.0割増、活マタイが 0.5割増、活ハマチが 0.3割増となったため、全体でも前年を上回った。平均価格では、活マタイが 0.3割高、活ハマチが 0.2割高となり、活アナゴが 2.3割安、活カンパチが 0.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,098 t（対前年比 96.0%）
平均価格 927円（ “ 5円安）

ハマグリ、ホタテ貝が増加したが、アサリ、シジミ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 19,989 t（対前年比 97.8%）
平均価格 975円（ “ 40円安）

取扱数量では、冷サケ・マス類が、シロサケ、ベニサケの 5割を超える増加から、全体でも 2.8割増、冷タイ類が 2.1割増となった。冷マグロ類は、印度マグロが 1.8割増、メバチが 0.4割増で、キワダなどが減少したが、全体で 0.3割増となった。冷カレイ類は 3.5割減、冷サバは 2.6割減、冷エビ類は、アカエビが 2.1割増となったが、全体では 0.4割減、冷イカ類は、モンゴウイカが 2.3割増となったが、全体では、0.2割減となった。平均価格では、冷イカ類は、スルメイカ（国内）が 5.3割高で、モンゴウイカ、ムキイカもやや値を上げ、全体でも 2.2割高となった。冷カレイ類は 1.5割高、冷サケ・マス類は、シロサケが 3.5割安、ベニサケが 2.8割安、全体で 1.2割安となった。冷マグロ類は、メバチが 1.6割安、キワダが 1.5割安、印度マグロは 1.1割安、全体でも 1.2割安となった。冷タイ類は 1.7割安、冷サバは 1.6割安となった。

☆加工品 取扱数量 25,225 t（対前年比 99.5%）
平均価格 762円（ “ 22円安）

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 2.3倍増、塩ベ

ニサケが 4.3割増、スジコが 4.7割増となったのに対し、塩ギンサケが 5.2割減、塩シロサケが 4.2割減などで、全体では 0.3割減となった。塩干品は、開干サンマが 1.3割減、開干アジが 0.9割減など、全体では 0.6割減、煮干製品は、シラス干が 2.6割増も全体では 0.7割減、練製品は 0.3割増、湯煮品は 1.6割増となった。平均価格では、塩蔵品は、塩ギンサケが 1.3割高となったものの、塩アキサケ 4.9割安、イクラが 4.3割安、塩ベニサケ、スジコの 2.6割安などで、全体に 2割安となった。湯煮品は 2割安、塩干品は、丸干イワシの 2.6割安、開干アジの 0.4割安などで、全体では 0.3割安となった。煮干製品は、煮干イワシの 1.4割高などで 5.8割高、焼物製品や素干品はやや値を上げた。

4月

☆鮮魚 取扱数量 14,710 t (対前年比 99.3%)
平均価格 1,077円 (" 48円安)

取扱数量では、マグロ類では、メバチ(輸入)が 5割増、マグロは国内物が 0.5割増、輸入物が 3.3割増となったが、メジが 6.6割減、メバチ(国内)が 4.6割減、キワダは国内・輸入物とも減少した。サバは依然好調で 5.8割増となった。ヤリイカは 4.8割増え、スルメイカは漁が回復し新物も出回り始め 4.2割増、キンメタイは 2.8割増となった。カツオは水揚げ不調で 2割減、マアジは 1.1割減、マタイは、天然物が 1.5割、養殖物が 1.3割、輸入物が 1.7割の減少となった。平均価格では、キワダ(輸入)が 1.7割高、メジが 1割高に対し、マグロは、国内物が 1.5割安、輸入物が 2.4割安。キワダ(国内)が 1.2割安、メバチ(輸入)は 0.3割安となった。カツオは 1.2割高、マタイは全般に値を上げ、マアジはやや高くなった。サバは 4.5割安、マイワシが 1.2割安、スルメイカは 1.1割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,224 t (対前年比 102.0%)
平均価格 1,841円 (" 48円安)

取扱数量では、活カレイが 2.6割増、活シマアジが 1.9割増、活マタイの 0.7割増に対し、活ハマチが 0.8割減、活アナゴが 0.2割減となった。平均価格では、活マタイが 1割高、活アナゴが 0.5割高、活カンパチが 2割安、活カレイが 1.4割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,842 t (対前年比 101.0%)
平均価格 910円 (" 13円安)

アオヤギ、サザエなどが増加したが、シジミ、ホタテ貝、アカ貝、アサリなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 20,715 t (対前年比 93.3%)
平均価格 973円 (" 15円安)

取扱数量では、冷タイ類が 2倍増、冷マグロ類は、印度マグロが 3割増、キワダが 1.9割増で、全体でも 0.2割増となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が 4.4割減、ムキイカが 2.5割減、モンコウイカが 1割減で、全体では 2割減となった。冷カニ類は 3.7割減、冷エビ類は、0.6割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 4割増、ベニサケも 2.6割増加したが、全体では 0.5割減となった。スリミは 5.9割減、ギントラが 5.6割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、インドが 1.5割安、メバチが 1.4割安など、全体でも 1.2割安となった。冷タイ類は 3.2割安となった。冷イカ類は、ムキイカがやや安かったが、スルメが全般に高く、全体では 2割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケの 3.6割安、ベニサケが 2.5割安など全体で 1.9割安となった。タコが 1割高、冷エビ類・冷カニ類は 0.7割高、サバは 1.7割安となった。

☆加工品 取扱数量 24,940 t (対前年比 101.8%)
平均価格 744円 (" 83円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 2.8倍増となるも、塩シロサケが 5.6割減、塩ギンサケが 5.1割減などでほぼ前年並みとなった。煮干製品は、シラス干が 2.5割減も全体では 1.6割増となり、塩干品は、開干サバが 3割増も開干サンマの 1.4割減など、全体では 0.6割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩アキサケが 4.9割安で、イクラが 4.5割安、塩ベニサケの 2.3割安などで、全体でも 2割安となった。湯煮品は 2.3割安、練製品がチクワ・カマボコとも安く 0.8割安となった。

5月

☆鮮魚 取扱数量 14,619 t (対前年比 91.7%)
平均価格 988円 (" 31円高)

取扱数量では、マグロ類は、メジが 3.9倍増、マグロの国内物が 4.3割増、輸入物が 2.2割増、メバチ(輸入)が 2.2割増となった。キワダは国内・輸入とも減少、メバチ(国内)は 0.9割減となった。サバは依然好調で 2.9割増、スルメイカは新物の出回りから 1.2割増となった。カツオは、入荷が本格化してきたが豊漁だった前年に比べ 2.7割減、マタイ(養殖)は 1.2割減、マイワシも 0.7割減となった。平均価格では、マグロ類は、キワダの国内物が 1.2割高、輸入物が 0.6割高となったほかは、全般に安めとなった。サバが 3.2割安、ハマチが 1.2割安となった。カツオは 3.6割高、マタイ(養殖)が 3割高、スルメイカは 1割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,129 t (対前年比 96.7%)
平均価格 1,809円 (" 11円安)

図1-1 総取扱数量の動き

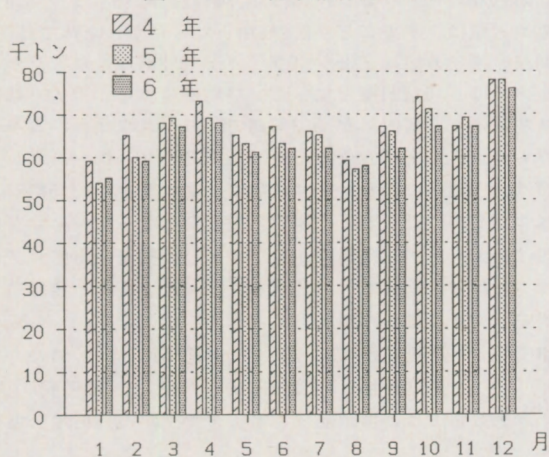


図1-2 総平均価格の動き

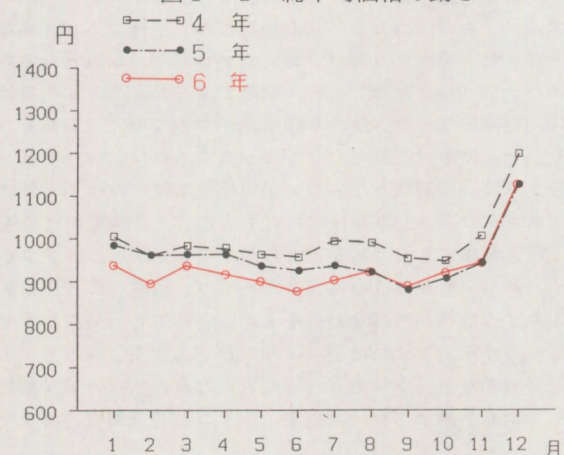


図2-1 鮮魚取扱数量の動き

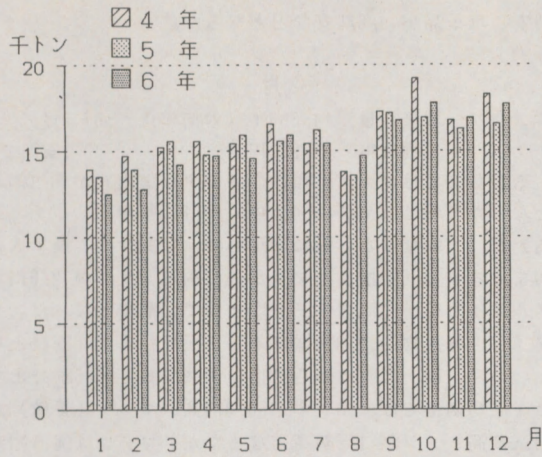
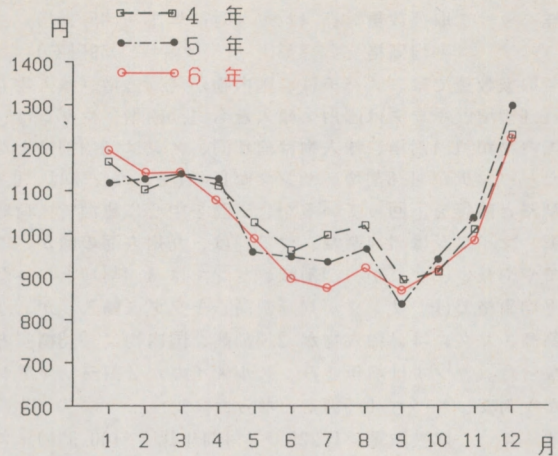


図2-2 鮮魚平均価格の動き



取扱数量では、活カンパチが1.2割増、活アナゴが0.8割増となった。活マタイは1.6割減、活ヒラメは1.4割減、活ハマチは1割減となった。平均価格では、活マタイが4.7割高、活ヒラメが0.5割高となった。活カンパチは2.5割安、活ハマチが1.4割安、活アナゴが1.1割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,268 t (対前年比 98.1%)
平均価格 920円 (" 12円安)

サザエ、トリ貝が増加したが、アカ貝、ホタテ貝、アサリなどが減少し、全体では、減少となった。

☆冷凍魚 取扱数量 17,102 t (対前年比 97.5%)
平均価格 1,003円 (" 45円安)

取扱数量では、冷タイ類は、0.7割増加した。冷イカ類は、ムキイカが3.6割増だが、スルメ(国内)の2.3割減など、全体では1.4割減、冷カニ類も1.4割減少した。冷マグロ類は、印度マグロが3.5割増もキワダが1.3割減、メバチが0.3割減で、全体ではほぼ前年並みとなった。冷サワラが3.6割増、スリミが2.5割増に対し、ギンタラが2.1割減、タコが1.1割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチの1.4割安を始め全般に安めで、全体でも1.3割安となった。冷サケ・マス類は、シロサケの3.1割安など全体でも2.1割安となった。冷イカ類は、スルメ(国内)の5.2割高から全体で0.9割高、冷カレイ類は1割高となった。サワラが2.4割安、サバが1.8割安となった。

☆加工品 取扱数量 22,570 t (対前年比 100.7%)
平均価格 722円 (" 75円安)

取扱数量では、練製品は、揚物が1.5割増で全体で0.6割増となった。塩蔵品は、塩アキサケが2.2倍増、塩ベニサケが3.5割増、イクラの2.8割増など、全体では0.2割増となった。塩干品は、丸干イワシの3.4割増も全体では前年並み、煮干製品は2.3割減となった。平均価格では、煮干品は、シラス干の3.3割高など全体で1.7割高、塩蔵品は、アキサケが5.1割安、イクラが5割安など、全体でも1.8割安、練製品も1.1割安となった。

6月

☆鮮魚 取扱数量 15,943 t (対前年比 102.1%)
平均価格 897円 (" 50円安)

取扱数量では、マグロは、国内物が9.7割増、輸入物が5.1割増、キワダは、国内物が3.8割減、輸入物が1.6割減、メバチは輸入物が2.4割増、国内物は1.1割減となった。ハマチが2割増、サバが1.9割増、カレイ類が1.2割増、マアジは0.5割増となった。カツオは1.6割減だが、これは例年並みで順調な入荷、キンメタイが2.7割減、マ

タイ(養殖)が1.7割減となった。平均価格では、マグロは国内物が4.5割安、輸入物が1.3割安、メバチは国内物が2.3割高も、輸入物が1.8割安となった。マタイ(養殖)が2.5割高、カツオは1.1割高であったが、マイワシが2.4割安、ハマチが2割安、マアジが1.8割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,233 t (対前年比 107.0%)
平均価格 1,656円 (" 256円安)

取扱数量では、活マタイが1.6割減となったが、活カンパチは1.9割増、活ハマチが1.2割増、活アナゴが1.2割増となった。平均価格では、活マタイが2.2割高も、活カンパチが3.1割安、活ハマチが2.4割安、活アナゴが1.5割安など、全般に安値の傾向となった。

☆貝類 取扱数量 4,271 t (対前年比 98.2%)
平均価格 936円 (" 2円高)

サザエ、ハマグリ、アサリなどが増加、シジミ、ホタテ貝、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 16,475 t (対前年比 92.6%)
平均価格 995円 (" 31円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケが1割減も、全体では1.6割増となった。冷マグロ類は、メバチがやや減少したが、印度マグロの3.4割増など、全体では0.3割増となった。冷タイ類は6.1割減、冷カレイ類が2.7割減、冷イカ類は、モンコウイカが2.2割減、スルメ(国内)が1.4割減で、全体で1割減となった。サンマとタコは1.8割減となった。平均価格では、冷タイ類が3.9割高、冷イカ類は、スルメ(国内)が4.4割高など、全体で1.4割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが3.6割安、ベニサケが1.6割安で、全体で1.8割安となった。冷マグロ類は、印度マグロが2.2割安、メバチが1.6割安など全般に安値から、全体では1.5割安となった。冷アカエビが1.9割安、冷サバは1.6割安となった。

☆加工品 取扱数量 23,236 t (対前年比 100.6%)
平均価格 728円 (" 60円安)

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが1.2割増など全体で0.6割増、練製品は0.6割増、塩干品は、開干アジが0.3割減に対し、丸干イワシが3.1割増で、全体では0.2割増となった。塩蔵品は、塩ギンサケが1.2割減、スケコが0.6割減となったが、イクラが2.8割増、塩シロサケの1.6割増など、全体ではやや前年を上回った。平均価格では、煮干製品は、シラス干が0.5割高で、全体で0.7割高。塩蔵品は2.2割安と全般に安めで、塩干品は、開干アジが0.3割安など、全体で0.8割安、練製品は1.1割安となった。

7月

☆鮮魚 取扱数量 15,422 t (対前年比 95.1%)
平均価格 873円 (" 59円安)

取扱数量では、メバチは、国内物が2.4倍増、輸入物も2.6割増、キワダは国内・輸入とも1.5割増、マグロは、国内物が1.1割増、輸入物は前年同、メジは8.4割減となった。ハマチが1.8割増、サンマが1.4割増、カツオは、0.6割減と前年を下回っているが、三陸を中心に豊漁で入荷順調、マイワシは1.1割減、マアジは、九州方面の漁が不調でやや減少、サバが1.4割減、サンマは1.4割増となった。平均価格では、サンマが4.8割高、キワダ(輸入)が2.6割高、マグロは、輸入物が2.3割高、国内物は3.3割安となった。カツオは前年並み、スルメイカが2割安、マアジが1割安、サバも0.9割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,229 t (対前年比 100.9%)
平均価格 1,769円 (" 129円安)

取扱数量では、活カンパチが1.9割増、活アナゴは0.6割増、活マタイが2.8割減、活ハマチが0.2割減となった。平均価格では、活マタイが4.9割高、活カンパチが3.4割安、活ハマチが2.8割安となり、活アナゴが1.8割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,042 t (対前年比 89.0%)
平均価格 958円 (" 14円安)

サザエ、アカ貝、ハマグリなどが増加したが、ホタテ貝、アオヤギ、アサリなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,394 t (対前年比 99.0%)
平均価格 1,006円 (" 56円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケが3.3割減だが、全体では0.1割増となった。冷マグロ類は、印度マグロが5.3割増だがメバチが減少し、全体で0.3割減となった。冷エビ類は2.3割減、冷カレイ類は1.8割減となった。ギンタラは6.5割増だが、スリミは2.6割減、サバが1.4割減などとなった。平均価格では、冷カレイ類は1.6割高、冷マグロ類は、メバチの1.3割安など全体で1割安となった。冷サケ・マス類は、シロサケの3割安など全体では0.9割安、冷イカ類は、国内スルメが2.2割高、サバは1.1割安、スリミが1割安、タコが2.5割高となった。

☆加工品 取扱数量 22,307 t (対前年比 91.9%)
平均価格 789円 (" 10円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが2倍増、イクラの4.6割増など、全体で0.5割の増加となった。煮干製品は、煮干イワシが1.6割増、塩干品は、開干アジの1.7割減など全体では1.7割減となった。素干品は2.2割減、練製品も揚物の1.5割減で1.2割減となった。平均価格では、

湯煮品が0.6割高、塩蔵品は、イクラが4.9割安などで1.5割安、塩干品が0.6割安などとなった。

8月

☆鮮魚 取扱数量 14,653 t (対前年比 107.6%)
平均価格 923円 (" 40円安)

取扱数量では、マグロ類は、キワダ(国内)が6.1割減となったほかは、マグロ(国内)が8.8割増、メバチ(国内)が6.1割増など、概ね増加した。サンマは、後半入荷がまとまり4.6割増、ハマチが3.3割増、サバが2.6割増、スルメイカは、北海道・三陸が豊漁で2割増となった。マタイは、輸入物が2.3割増に対し、養殖物は1.6割減となった。カツオは、盆明けから水揚げが減少して3.6割減となった。平均価格では、カツオが6.3割高、マタイ(養殖)が1.6割高、メジが1.5割高となったが、マグロは国内物が3.2割安、輸入物が2割安、ハマチは3.2割安となり、サンマは2.5割安、サバが1.9割安、マイワシも1.6割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,078 t (対前年比 104.7%)
平均価格 1,892円 (" 148円安)

取扱数量では、活カンパチは3.1割増、活カレイは1.2割増、活アナゴは0.8割増となった。活マタイは2.2割減となった。平均価格では、活マタイが4.1割高となり、活カンパチは3.5割安、活ハマチが3割安、活アナゴも1.2割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,579 t (対前年比 94.1%)
平均価格 1,004円 (" 25円高)

サザエ、シジミなど増加したが、アサリ、ホタテ貝、ハマグリなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,717 t (対前年比 103.8%)
平均価格 1,040円 (" 62円高)

取扱数量では、冷タイ類は6.2割増、冷サケ・マス類は、シロサケが2.2倍増で、ベニサケの1.5割増など、全体でも3.9割増となった。ギンタラは2.3割増、冷マグロ類は、印度マグロの4.1割増など、全体では0.3割増となった。サバは2.5割減、冷カレイ類は1.4割減、冷イカ類は、モンコウイカの2割増も、スルメ(国内)が5.2割減、ムキイカは2.4割減少して、全体では1.4割減となった。平均価格では、冷タイ類は2.3割高、冷カレイ類は2.1割高、冷イカ類は、スルメ(国内)が1.4割高、ムキイカの0.7割高など、冷イカ類全体で1.3割高。ギンタラは2.9割高となった。冷マグロ類は、メバチの0.7割安から全体では0.7割安。アカエビは0.9割安、スリミが0.3割安となった。

図3-1 貝類取扱数量の動き

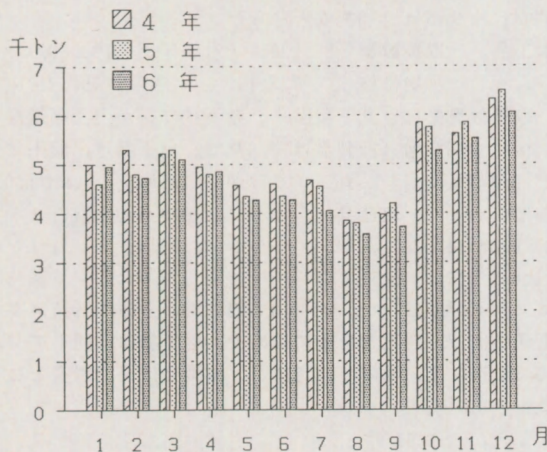


図3-2 貝類平均価格の動き

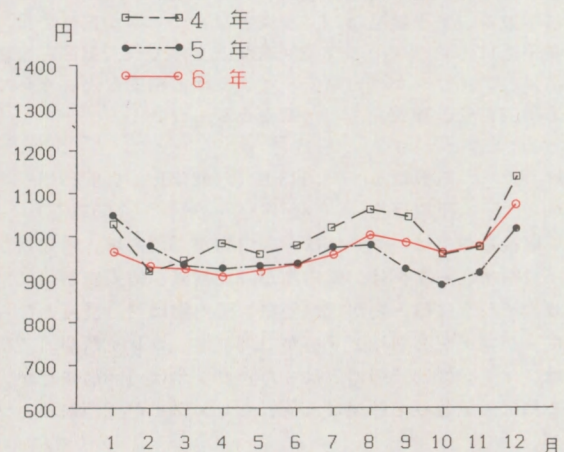
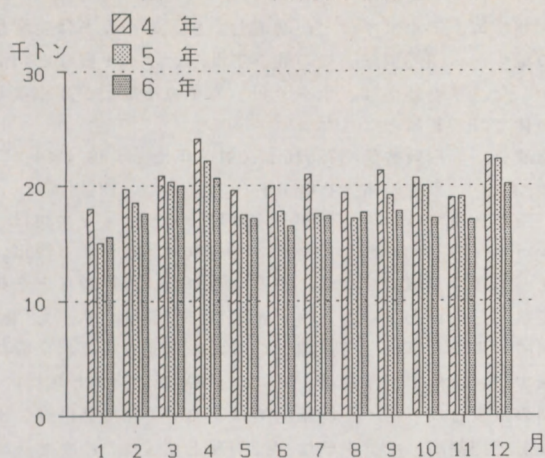


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き



☆加工品 取扱数量 20,344 t (対前年比 101.1%)
平均価格 766円 (" 16円安)

取扱数量では、焼物製品は、猛暑から蒲焼ウナギの需要が伸びるなど、全体で 6.2割増となった。塩蔵品は、スジコが 4.2割増、ペニサケも 2.8割増加するなど、全体でも 0.6割増となった。その他、素干品が 2.2割減、煮干製品が 1.7割減となった。平均価格では、焼物製品は 1.3割高となった。湯煮品は、煮タコが 1.7割高など全体では 0.8割高となった。その他、全般に安値の傾向にあった。

9月

☆鮮魚 取扱数量 16,762 t (対前年比 97.7%)
平均価格 869円 (" 36円高)

取扱数量では、マグロ(国内)は 8.1倍増、メジが 4.5倍増、メバチは、輸入物が前年並みも、国内物が 2.1割減、キワダの国内物が 7.5割減で、輸入物も 1.5割減となった。ハマチは 4.1割増、サバが 2割増となった。マアジは、九州方面の好漁から 0.7割増、本年もサンマは豊漁で、前年並みとなった。カツオは 4.9割減、マイワシが 3.3割減、スルメイカは、三陸から北海道沿岸の漁獲不振から 1.4割減となった。平均価格では、カツオが 7割高、マイワシが 5.1割高、スルメイカは 3.9割高となった。マグロ(国内)は 3.3割安、ハマチが 2.4割安、サバが 1.1割安、マアジも 0.3割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,010 t (対前年比 100.1%)
平均価格 2,006円 (" 148円安)

取扱数量では、活カンパチが 3.6割増となり、活マタイが 2割減、活アナゴが 0.3割減となった。平均価格では、活マタイが 3.5割高となった。活カンパチが 3.8割安、活ハマチが 3割安、活アナゴは 1割安となった。

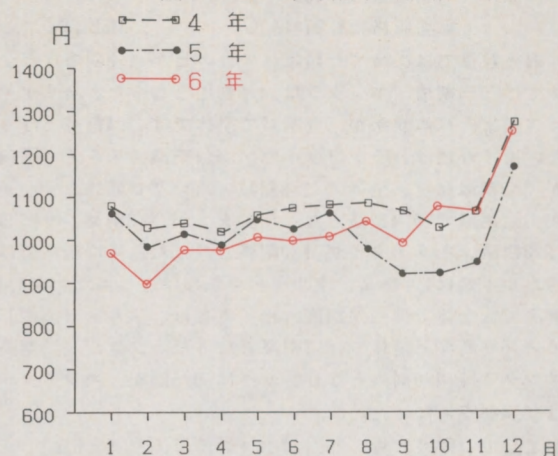
☆貝類 取扱数量 3,730 t (対前年比 88.9%)
平均価格 987円 (" 63円高)

ハマグリが増加したが、アサリ、ホタテ貝など全般に減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,811 t (対前年比 92.7%)
平均価格 988円 (" 67円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケが 7.4割増、その他は全般に減少し、全体では前年並みとなった。冷イカ類は、国内スルメが 5.6割減、モンゴウやムキイカも減少し、全体では 2.8割減となった。冷タイ類は 1.9割減、冷エビ類は 1割減、冷マグロ類は、印度マグロが 2.2割減少し、全体でも 0.4割減となった。ギンタラは 4.5割減、サバが 1割減となった。スリミが 2.7割増、タコが 0.5割

図4-2 冷凍魚平均価格の動き



増となった。平均価格では、冷イカ類は、モンコウイカが前年並みも、スルメ(国内)の 4.6割高など、全体で 2.4割高、冷サケ・マス類は、ペニサケが 3.2割高で、全体も 1.2割高となった。冷カレイ類は 0.9割高、冷マグロ類は、印度マグロが 1.2割安、メバチが 0.5割安、全体では 0.4割安となった。タコが 5.6割高、ギンタラが 3.5割高となった。

☆加工品 取扱数量 22,061 t (対前年比 93.0%)
平均価格 762円 (" 60円安)

取扱数量では、焼物製品が 2.3割増となったが、塩蔵品は、スジコの 2.9割増も、イクラ 2.8割減、塩サケが全般に減少して、全体で 2.1割減となった。煮干製品は、シラス干が 3.1割増加したが、全体では 0.5割減少した。平均価格では、塩蔵品は、イクラが 4割安、塩アキサケが 3.5割安、スジコが 1.5割安、全体でも 1.1割安となった。塩干品は 0.6割安、煮干製品は、シラス干の 2.4割安から、全体で 0.5割安となった。

10月

☆鮮魚 取扱数量 17,834 t (対前年比 105.4%)
平均価格 919円 (" 22円安)

取扱数量では、メバチは、輸入物が 5.5割増、国内物が 0.8割増、マグロ(輸入)が 4.1割増、キワダは国内物が 3.5倍増、輸入物が 5.7割減となった。サバは、三陸を中心に好漁となり 2.3割増、スルメイカは 1.6割増、マアジも順調な水揚げで 1.3割増となった。マタイは、輸入物は 2.4割減、養殖物が 1.2割減、サンマは前年並みとなった。カツオは 3.8割減、マイワシは 2.7割減となった。平均価格では、マグロ類は、マグロ(国内)が 0.4割高のほか全般に安値、マイワシが 2.9割高、カツオが 2.5割高となった。ハマチは 1.5割安、サバが 1.4割安、マアジが 1割安、スルメイカが 0.7割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,094 t (対前年比 101.0%)
平均価格 1,841円 (" 32円安)

取扱数量では、活カンパチが 3.2割増、活ハマチが前年並みとなった。活マタイは 2.1割減、活アナゴは 0.2割減となった。平均価格では、活マタイが 3.2割高となり、活カンパチは 3.7割安、活ハマチは 2.9割安となり、活アナゴも 0.1割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,267 t (対前年比 91.5%)
平均価格 957円 (" 70円高)

サザエ、アオヤギなどが増加したが、ハマグリ、アサリ、カキ、シジミ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,094 t (対前年比 85.5%)
平均価格 1,074円 (" 153円高)

取扱数量では、冷エビ類は、アカエビが 1.8割増など全体では 0.4割増、ギンタラは 4.6割増となった。冷サケ・マス類は、ペニサケが 5.6割減で全体では 3.4割減となった。冷イカ類は、モンコウイカが 4.1割減、スルメ (国内) が 3.5割減など、全体で 1.8割減、冷マグロ類は、メバチが 1.1割減で 0.4割減となった。タコが 3.3割減、サバは 2.8割減、キンメタイが 1.9割減となった。平均価格では、冷カレイ類は1.2割高、冷サケ・マス類は、ペニサケが4.1割高で、全体では 1.1割高、冷イカ類は、スルメ (国内) の 1.6割高など全体で 0.7割高となった。タコが 5.5割高、ギンタラは 4.6割高となり、サバは 0.5割安、キンメタイは 0.4割安となった。

☆加工品 取扱数量 25,147 t (対前年比 95.6%)
平均価格 781円 (" 67円安)

取扱数量では、煮干製品は、シラス干の 2.3割減などあったが、全体で 2.2割増、塩蔵品は、スジコが 3.7割増、イクラの 2.6割増で、全体でも 0.5割減少した。練製品は、揚物がやや減少したが、全体で前年並み、焼物製品は、1.7割増となった。平均価格では、煮干製品はシラス干が 2.7割安で全体も 2.1割安となった。素干品は 1.1割安、塩蔵品もアキサケの 2.6割安など、全体でも 0.9割安となった。

11月

☆鮮魚 取扱数量 16,946 t (対前年比 103.8%)
平均価格 990円 (" 45円安)

取扱数量では、マグロは、輸入物が 4.6割増、国内物が 1.9割減、メバチも輸入物が 4.3割増、国内物が 4割減となった。好調な漁が続くマアジは、1.9割増、サバは 1.3割増。カニ類は 2.8割増、フグ類も 2割増、ハマチは 0.4割の増加となった。マイワシは、漁獲不振から 2.4割減、サンマは 1.4割減、スルメイカは、三陸・北海道方面の水揚げ減少から 0.8割減となった。平均価格では、マグロは、国内物が 3.1割高、輸入物が 2.8割安、スルメイカは 2.1割高となった。マアジは 2.2割安、サバが 2割安、ハマチが 1.8割安、マイワシも 0.4割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,133 t (対前年比 変わらず)
平均価格 1,662円 (" 127円安)

取扱数量では、活カンパチが 1.6割増、活アナゴが 0.9割増となり、活ハマチ・活マタイが 1.8割減少した。平均価格では、活マタイが 2.3割高となったが、活カンパチ・活ハマチなどが安値となった。

☆貝類 取扱数量 5,534 t (対前年比 94.5%)

平均価格 980円 (" 65円高)

サザエ、アオヤギなどが増加したが、ムキカキは生産量の減少から 1.3割減、その他、アサリ、ホタテ貝などが減少した。平均価格は、ホタテ貝、ムキカキなどが高くなり、全体で 0.7割高となった。

☆冷凍魚 取扱数量 17,046 t (対前年比 89.4%)
平均価格 1,064円 (" 121円高)

取扱数量では、スリミが 8.4割増、冷サケ・マス類は、シロサケの 0.9割増など全体で 0.8割増、冷マグロ類は、メバチがやや減少したが、印度マグロの 6.4割増など全体では 0.1割増となった。冷タイ類は 5.5割減、サバも 4.4割減、ギンタラは 2.7割減となった。冷イカ類は、全般に減少し、全体で 1.7割減、タコは1.8割減、冷エビ類は0.4割の減少となった。平均価格では、冷タイ類は2倍高、タコも 5.5割高、ギンタラは 4.3割高となった。冷サケ・マス類は、ペニサケが 2.8割高など、全体でも 0.8割高、冷エビ類は 0.8割高となった。冷イカ類は、スルメ (国内) が 2.3割高、ムキイカが 1.3割高も、ほぼ前年並み、冷マグロ類は、印度マグロが 2.2割安、メバチの 0.3割安など、全体でも 0.2割安となった。

☆加工品 取扱数量 25,296 t (対前年比 98.5%)
平均価格 811円 (" 44円安)

取扱数量では、練製品が、揚物の 1割増から、全体で0.4割増加、塩蔵品は、塩アキサケが1.3割増で、全体では0.2割増となった。塩干品は前年並み、煮干製品は、シラス干の 2.9割減から 1.4割減少した。平均価格では、練製品が、揚物の 1.1割安から、全体で 0.8割安など、全般に安値の傾向となった。

12月

☆鮮魚 取扱数量 17,667 t (対前年比 106.2%)
平均価格 1,216円 (" 79円安)

取扱数量では、メジは 2.7倍増、メバチ (輸入) が 5.2割増、マグロは、輸入物が 1.3割増、国内物が 4割減、メバチ (国内) は 2.7割減となった。カニ類は 4.5割増、サバが 3割増となった。ハマチは、生産量の増加で 1.9割増、マアジも水揚げ好調で 1.5割増、マタイは、天然物 1.3割増、養殖物は 1.2割減となった。スルメイカは、主力が九州方面となったが 2.6割減、マイワシも各地の漁獲不振から 2.2割減少した。平均価格では、スルメイカが 3割高、マグロは、国内物が 6.1割高、輸入物は 1.7割安、マタイ (養殖) が 3.3割高、マイワシは 0.3割高となった。ハマチが 2.8割安、サバも 2.6割安、マアジは 1.8割安、カニ類は 1.6割安、シロサケが 0.8割安、タラ類は 0.7割安となっ

図5-1 加工品取扱数量の動き

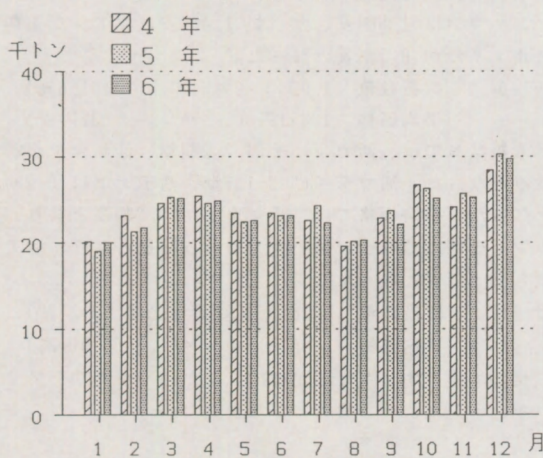
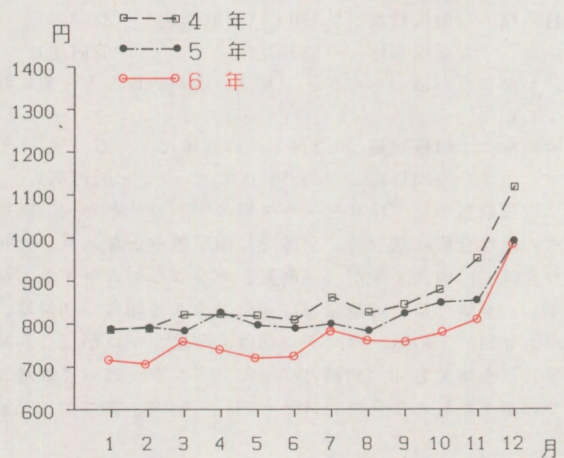


図5-2 加工品平均価格の動き



た。

☆活魚 取扱数量 1,477 t (対前年比 100.7%)
平均価格 1,628円 (" 67円安)

取扱数量では、活カンパチが2.3割増、活ヒラメが1.2割増で、活マタイは1.4割減、活ハマチが1割減となった。平均価格では、活マタイが1.7割高となったが、活カンパチが2.9割安、活ハマチが2.2割安、活ヒラメも1.1割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,059 t (対前年比 93.2%)
平均価格 1,076円 (" 60円高)

ホタテ貝の2.1割減など、全般に減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 20,070 t (対前年比 90.1%)
平均価格 1,252円 (" 82円高)

取扱数量では、冷カニ類は2.5割減少、冷カレイ類も2.3割減、冷タイ類は1.2割減少した。冷エビ類は0.7割減、冷サケ・マス類は、ベニサケが2.8割減、シロサケの2割減など、全体では0.4割減となった。冷イカ類は、モンコウイカの0.5割増も、スルメ(国内)が3.4割減、ムキイカも1.4割減少するなど、全体では0.3割減となった。冷マグロ類は、印度マグロが4.5割増加したが、メバチが1.1割減など全体で0.2割減、サバは2.7割減、タコが前年並みとなった。平均価格では、冷カニ類は3割高、冷カレイ類は1.2割高、冷サケ・マス類は、ベニサケの2.9割高など、全体で0.7割高、冷エビ類も0.7割高となった。冷マグロ類は、印度マグロが2.6割安、メバチの0.8割安で、全体では0.6割安となった。その他、タコが6.8割高、ギンタラは4.8割高、スリミは1.5割高となった。

☆加工品 取扱数量 29,651 t (対前年比 98.0%)
平均価格 983円 (" 9円安)

取扱数量では、練製品は、揚物の増加で0.2割増となり、塩蔵品は、塩ギンサケが3.1割増、イクラが2.4割増、塩アキサケも0.3割増だが、全体では前年並みとなった。塩干品も増減区々で、全体では前年並み、煮干製品は、煮干イワシ・シラス干とも0.6割減で、全体が0.7割減となった。平均価格では、煮干イワシは3.9割高、煮タコが3.2割高、酢タコも0.8割高となった。カマボコは前年並み、シラス干は1.4割安、スジコが1.7割安、イクラの1.1割安となった。塩カズノコは0.7割安、塩アキサケも0.6割安となったが、加工品全体では、前年並みとなった。

2. 主要品目の取扱高

(1) マグロ類

6年の生鮮マグロ類の取扱量は、メバチ(輸入)は3.3割増、マグロは、国内物が近海まき網漁の好漁から4.4割増、輸入物は2.5割増、メジが3.8割増となったが、メバチ(国内)は2.5割減、キワダは国内物が3.1割減、輸入物も1.4割減となり、全体では1.4割増となった。平均価格では、マグロは国内物が970円安、輸入物が871円安、メジが430円安となり、全体でも、214円安となった。

冷凍マグロ類の取扱量は、冷印度マグロは3.3割増となったが、その他全般に減少し、全体では前年並みとなった。平均価格では、冷印度マグロが637円安、冷メバチが144円安となり、全体でも144円安となった。

(2) マアジ

入荷順調で取扱量は前年をわずかに上回った。平均価格は495円で、53円安となった。

(3) サバ

生鮮品は、比較的順調な水揚げが続き2.9割増となった。平均価格は425円で、147円安となった。冷サバは0.6割

減少し、平均価格も31円安となった。

(4) イワシ

取扱数量は、前年比1割減となった。平均価格は244円で、4円安となった。

(5) カツオ

前年は大豊漁であったが、今年は漁獲漁が例年の水準に戻り、取扱数量は2.7割減となった。平均価格は587円で、100円高と値を上げた。

(6) サンマ

取扱数量は前年並みで、平均価格は325円で、8円安となった。

(7) スルメイカ

生鮮物は、3月頃までの低調な水揚げが影響し、数量では1.2割減となった。平均価格は467円で、42円高となった。冷凍物は、全体では2.5割減少し、平均価格は、国内物が103円高、SA物が55円高となり、全体では、97円高となった。

(8) 養殖ハマチ

ここ数年の減少傾向も一段落し、数量も前年並みとなった。平均価格は、974円となり、127円安となった。

(9) サケ・マス類

生鮮サケ・マス類は、ギンサケが3.3割減、シロサケが前年並みも、輸入物が4.4割の増加で、全体では1.1割増となった。平均価格では、シロサケが94円安、ギンサケが90円安、輸入物が135円安となり、全体では63円安となった。

冷凍サケ・マス類は、冷ベニサケが1.1割減少したが、冷ギンサケが0.8割、冷シロサケの0.4割などの増加で、全体では0.3割増となった。平均価格では、冷ベニサケが41円高、冷ギンサケが84円安、冷シロサケが162円安で、全体では42円安となった。

(10) 魚卵

イクラは、春の需要期に多くの在庫で安定した値をつけ、年間では数量が0.6割増で、価格は2,405円安となった。スジコは、アキサケの豊漁により国内生産が増加したため、数量は2.2割増で484円安、スケコは0.5割増で248円安となった。

(11) エビ類

生鮮エビ類は、クルマエビ(輸入)が2.2割増、マキエビが1.7割増であったものの、クルマエビ(国内)が4.7割減、ムキエビが0.9割減になるなど、全体でも0.3割減となった。平均価格では、イセエビの国内物が50円高、ムキエビが35円高のほかは、クルマエビは国内物が1,595円安、輸入物が620円安、アカエビが452円安となるなど、全体では271円安となった。

冷凍エビ類は、インド物が5割増、アカエビが0.5割増となったが、中国物が半減、タイ物が2.4割減、インドネシア物が0.5割減など、全体では0.6割減となった。平均価格では、冷イセエビ(輸入)が503円高、国内物も130円高、中国物が260円高、インド物が197円高、インドネシア物が112円高で、全体では、45円高となった。

(12) 加工品類

塩サケは、塩アキサケが1.2割増で109円安、塩シロサケが1.8割減で35円高となった。開干アジは、0.6割減少して33円安。シラス干は、1割の減少だが69円安。蒲焼ウナギは1.2割増で51円安。干スルメは全般に減少し、価格は国内物が29円安、SA物が21円高。練製品は、生チクワ、カマボコなどが数量はこなしたものの単価安で、全体では0.2割増で42円安。煮タコは0.7割減で39円高となった。

3. 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱高は、666,076 t で前年比97%と減少(17,097 t 減)し、総取扱金額は、626,411百万円で前年比95%と減少(30,473百万円減)した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、155,003 t (2,633 t 減)で前年比98%となり、取扱金額は、162,591百万円(5,800百万円減)で3%減となった。活魚の取扱数量は、12,349 t (269 t 増)で前年比102%と増加し、取扱金額は、22,266百万円(914百万円減)で4%の減となった。冷凍魚の取扱数量は、190,166 t (9,758 t 減)で前年比95%となり、取扱金額は195,075百万円(8,218百万円減)で前年比96%となった。加工品の取扱数量は、249,832 t (3,212 t 減)で前年比99%となり、取扱金額は、191,585百万円(14,194百万円減)で前年比93%となった。貝類の取扱数量は、48,889 t (1,894 t 減)で前年比96%となり、取扱金額は、47,934百万円(1,284百万円減)で前年比97%となった。淡水魚の取扱数量は、3,195 t (7 t 増)で前年からわずかに増となり、取扱金額は、4,442百万円(98百万円増)で前年比102%となった。海藻類の取扱数量は、6,642 t (123 t 増)で前年比102%となり、取扱金額は、2,517百万円(163百万円減)で前年比94%となった。

(2) 足立市場

総取扱高は、57,980 t で前年比94%と減少(3,910 t 減)し、総取扱金額は、50,571百万円で、前年比91%と減少(5,146百万円減)した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、14,354 t (956 t 減)で前年比94%となり、取扱金額は、12,199百万円(452百万円減)で前年比96%となった。活魚の取扱数量は、875 t (35 t 減)で前年比96%となり、取扱金額は、1,223百万円(155百万円減)で前年比89%となった。冷凍魚の取扱数量は、13,673 t (1,572 t 減)で前年比90%となり、取扱金額は、12,783百万円(1,579百万円減)で前年比89%となった。加工品の取扱数量は、22,578 t (878 t 減)で前年比96%となり、取扱金額は、19,080百万円(2,649百万円減)で前年比88%となった。貝類の取扱数量は、5,356 t (478 t 減)で前年比92%となり、取扱金額は、4,433百万円(325百万円減)で前年比93%となった。淡水魚の取扱数量は、393 t (39 t 増)で前年比111%となり、取扱金額は、509百万円(45百万円増)で前年比110%となった。海藻類の取扱数量は750 t (32 t 減)で前年比96%となり、取扱金額は、343百万円(32百万円減)で前年比92%となった。

(3) 大田市場

総取扱高は、38,773 t で前年比103%と増加(1,054 t 増)し、総取扱金額は、35,965百万円で前年比101%とわずかに増加(363百万円増)した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、14,701 t (1,416 t 増)で前年比111%となり、取扱金額は11,776百万円(695百万円増)で前年比106%となった。活魚の取扱数量は、678 t (46 t 増)で前年比107%となり、取扱金額は、1,137百万円(19百万円増)で前年比102%となった。冷凍魚の取扱数量は、10,672 t (834 t 減)で前年比93%となり、取扱金額は、11,202百万円(208百万円減)で前年比98%となった。加工品の取扱数量は、10,051 t (568 t 増)で前年比106%となり、取扱金額は、9,298百万円(66百万円減)で前年比99%となった。貝類の取扱数量は、2,108 t (148 t 増)で前年比93%となり、取扱金額は、1,994百万円(149百万円減)で前年比93%となった。淡水魚の取扱数量は、223 t (16 t 増)で前年比108%となり、取扱金額は、393百万円(

76百万円増)で前年比124%となった。海藻類の取扱数量は、341 t (9 t 減)で前年比97%となり、取扱金額は、165百万円(4百万円減)で前年比98%となった。

4. 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は、140,716 t で、前年比98%と減ながら、前年に引き続きトップに立った。総取扱金額は、131,341百万円で、前年比97%と減少した。類別には、数量では、活魚は6%増加(207 t 増)、冷凍魚はほぼ前年並み、加工品は7%減少(2,320 t 減)、鮮魚は1%減少(196 t 減)となった。貝類は1%減少(140 t 減)となった。金額では、冷凍魚はわずかに前年を上回り、加工品は11%減少(3,388百万円減)、活魚は3%減少(257百万円減)、貝類は2%減少(323百万円減)、鮮魚はわずかな減少となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は、134,789 t で、前年比96%と減少し、総取扱金額は、146,608百万円で、前年比95%と減少したが、金額は本年もトップとなった。類別には、数量では、鮮魚が2%増加(875 t 増)となった。加工品は11%減少(3,298 t 減)貝類は9%減少(1,103 t 減)、活魚は6%減少(189 t 減)、冷凍魚も4%(2,009 t)の減少となった。金額では、加工品が16%減少(5,067百万円減)、活魚が11%減少(702百万円減)、冷凍魚は3%減少(1,676百万円減)、鮮魚はわずかに減少となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、124,080 t で、前年比96%と減少し、総取扱金額は、129,910百万円で、前年比95%と減少した。類別には、数量では、活魚は10%増加(171 t 増)、加工品はわずかに増加、冷凍魚は8%減少(3,548 t 減)、鮮魚は5%減少(1,764 t 減)となった。金額では、貝類、活魚がわずかに増加したものの、冷凍魚は7%減少(3,052百万円減)、加工品は6%減少(2,209百万円減)、鮮魚も5%減少(1,956百万円減)した。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、120,381 t で、前年比95%と減少し、総取扱金額は、107,738百万円で、前年比92%と減少した。類別には、数量では、冷凍魚が12%減少(3,299 t 減)、鮮魚は5%減少(1,556 t 減)、冷凍魚は3%減少(1,394 t 減)、貝類も3%減少(248 t 減)となった。金額では、冷凍魚が11%減少(3,607百万円減)、鮮魚は9%減少(2,927百万円減)、加工品は4%減少(1,394百万円減)、活魚も4%減少(296百万円減)となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、55,484 t で、前年比98%と減少し、総取扱金額は、51,833百万円で、前年比96%と減少した。類別には、数量では、鮮魚、加工品は前年とほぼ変わらず、冷凍魚は8%減少(897 t 減)、貝類も4%減少(335 t 減)となった。金額では、冷凍魚はほぼ前年並みながら、貝類は10%減少(979百万円減)、鮮魚は4%減少(631百万円減)、加工品も4%減少(657百万円減)となった。活魚は、順調な伸びをみせ、数量で2.3倍、金額で1.6倍となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、76,104 t で、前年比106%と増加し、総取扱金額は、46,111百万円で、前年比102%と増加した。加工品の取扱としては、数量・金額ともに本年もトップと

なった。類別には、数量では、加工品が6%増加(4,144 t増)し、海藻類も26%増加(346 t増)した。金額では、加工品は2%増加(992百万円増)となり、海藻類も7%増加(33百万円増)となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、14,523 tで、前年比95%と減少し、総取扱金額は、12,868百万円で、前年比90%と減少した。類別には、数量では、加工品は5%減少(773 t減)し、海藻類は69%増加(25 t増)となった。金額では、加工品は10%減少(1,468百万円減)し、海藻類も3%減少(2百万円減)となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、22,218 tで、前年比95%と減少し、総取扱金額は、18,090百万円で、前年比92%と減少した。類別には、数量では、冷凍魚は2%増加(90 t増)したが、活魚は17%減少(62 t減)、貝類は8%減少(186 t減)、加工品は6%減少(678 t減)、鮮魚も5%減少(216 t減)となった。金額では、冷凍魚は3%増加(108百万円増)となったが、加工品は14%減少(1,308百万円減)、貝類は6%減少(102百万円減)、鮮魚は3%減少(117百万円減)となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、18,365 tで、前年比88%と減少し、総取扱金額は、16,093百万円で、前年比87%と減少した。類別には、数量では、活魚は前年と変わらないものの、冷凍魚は30%減少(1,698 t減)となった。貝類は8%減少(136 t減)、鮮魚が7%減少(384 t減)、加工品も7%減少(451 t減)となった。金額では、鮮魚は2%減少(67百万円減)にとどまったものの、冷凍魚は26%減少(1,368百万円減)、加工品が14%減少(949百万円減)となった。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、17,397 tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、16,389百万円で、前年比94%と減少した。類別には、数量では、活魚は9%増加(29 t増)、加工品は5%増加(251 t増)、冷凍魚もわずかに増加した。貝類は9%減少(157 t減)、鮮魚は6%減少(357 t減)となった。金額では、加工品は7%減少(392百万円減)、冷凍魚は7%減少(319百万円減)、鮮魚は6%減少(267百万円減)、貝類も5%減少(72百万円減)となった。

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、21,164 tで、前年比102%と増加し、総取扱金額は、20,048百万円で、前年比99%と減少した。類別には、数量では、活魚は17%増加(18 t増)、鮮魚も5%増加(424 t増)、冷凍魚と加工品はわずかに減少となった。金額では、活魚は6%増加(13百万円増)、鮮魚も3%増加(228百万円増)となった。加工品は7%減少(377百万円減)、冷凍魚は2%減少(131百万円減)となった。

② (株)大田合水

総取扱数量は、17,609 tで、前年比104%と、総取扱金額は、15,917百万円で、前年比104%とともに増加した。類別には、数量では、鮮魚は18%増加(991 t増)、加工品は16%増加(604 t増)、活魚は5%増加(28 t増)した。冷凍魚は14%減少(803 t減)となった。金額では、鮮魚は11%増加(466百万円増)、加工品は8%増加(311百万円増)、活魚、冷凍魚はほぼ前年並み、貝類は15%減少(169百万円減)となった。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、48.9%と前年を0.1%上回り、金額では、48.3%と前年を0.7%上回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、48.9%と前年を0.2%上回り、金額では、47.3%と前年を0.9%上回った。足立市場の買付比率は、数量では、43.1%と、前年を0.7%下回り、金額では、50.1%と前年を1.2%下回った。大田市場の買付比率は、数量では、57.4%と前年を1.8%下回り、金額では、63.0%と前年と変わらなかった。

卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、48.9%と前年を0.8%下回り、金額では、45.7%と前年を0.3%上回った。中央魚類は、数量では、48.8%と前年を1.7%下回り、金額では、47.8%と前年を0.9%上回った。東都水産は、数量では、47.5%と前年を0.1%上回り、金額では、45.5%と前年と同じであった。築地魚市場は、数量では、36.2%と前年を0.1%上回り、金額では、35.0%と前年を0.3%上回った。第一水産は、数量では、36.9%と前年を0.5%上回り、金額では、42.6%と前年を1.9%上回った。丸千代田水産は、数量では、81.5%で前年を0.6%上回り、金額では、85.7%と前年を0.7%上回った。総合食品は、数量では、40.4%と前年を5.1%上回り、金額では、58.9%と前年を3.3%上回った。

東京北魚は、数量では、42.4%と前年を0.8%下回り、金額では、53.9%と前年を0.6%下回った。大都魚類千住支社は、数量では、40.6%と前年を2.3%下回り、金額では、45.7%と前年を3.9%下回った。中央魚類千住支社は、数量では、46.5%と前年を0.6%上回り、金額では、50.3%と前年を0.8%上回った。

東京大田魚市場は、数量では、59.7%と前年を0.5%上回り、金額では、66.6%と前年を0.6%上回った。大田合水は、数量では、54.8%と前年を4.3%下回り、金額では、58.5%と前年を0.4%下回った。

5. 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位青森・7位三重・8位愛知・9位神奈川・10位福島で、青森県が前年の8位から6位に上がった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位大阪・8位青森・9位愛知・10位三重で、大阪が前年の8位から7位に、青森が前年の10位から8位に上がっている。

(2) 鮮魚取扱高

前年に続き東京が1位、以下2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森・6位三重まで前年と変わらず、7位愛媛・8位静岡・9位鹿児島となり、7位に愛媛が入った。

(3) 冷凍取扱高

東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位宮城・4位青森・5位大阪・6位千葉・7位神奈川・8位北海道・9位愛知・10位福岡となった。3位と4位、9位と10位がそれぞれ前年と入れかわった。

(4) 加工品取扱高

これも、東京が前年に続き第1位となった。2位千葉・3位宮城・4位静岡・5位北海道・6位福島・7位愛知・8位茨城・9位兵庫・10位三重となった。

表 1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

	6年	5年	4年	3年	2年	元年	63年
総数量 前年比	762,829 97.5	782,782 96.9	807,920 97.0	832,532 98.3	847,319 97.7	867,538 98.4	882,040 99.1
総金額 前年比	712,946,992 95.3	748,202,651 92.9	804,962,014 97.4	826,250,552 97.9	843,694,370 103.7	813,943,824 102.8	791,664,123 102.2

表 2 - 1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	6年		5年		4年		3年		2年		前年比					6年 / 60年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	6年	5年	4年	3年	2年	
総数	762,829	100.0	782,782	100.0	807,920	100.0	832,532	100.0	847,319	100.0	97.5	96.9	97.0	98.3	97.7	90
鮮魚	184,057	24.1	186,230	23.8	192,165	23.8	181,416	21.8	173,388	20.5	98.8	96.9	105.9	104.6	98.0	—
活魚	13,902	1.8	13,622	1.7	13,411	1.7	12,900	1.5	12,582	1.5	102.1	101.6	104.0	102.5	104.5	—
貝類	56,352	7.4	58,873	7.5	59,906	7.4	59,280	7.1	61,195	7.2	95.7	98.3	101.1	96.9	97.8	84
冷凍魚	214,511	28.1	226,675	29.0	246,266	30.5	268,264	32.2	285,557	33.7	94.6	92.0	91.8	93.9	97.5	74
淡水魚	3,812	0.5	3,748	0.5	4,427	0.5	4,535	0.5	4,242	0.5	101.7	84.7	97.6	106.9	97.2	76
海藻類	7,733	1.0	7,651	1.0	7,505	0.9	7,672	0.9	7,779	0.9	101.1	101.9	97.8	98.6	107.7	108
加工品	282,461	37.0	258,988	33.1	284,240	35.2	298,465	35.9	302,575	35.7	109.1	91.1	95.2	98.6	97.1	93

285,983 36.5

表 2 - 2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	6年		5年		4年		3年		2年		前年比					6年 / 60年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	6年	5年	4年	3年	2年	
総数	712,947	100.0	748,203	100.0	804,962	100.0	826,251	100.0	843,694	100.0	95.3	92.9	97.4	97.9	103.7	97
鮮魚	186,566	26.2	192,123	25.7	200,208	24.9	197,486	23.9	192,274	22.8	97.1	96.0	101.4	102.7	105.6	—
活魚	24,626	3.5	25,677	3.4	25,348	3.1	26,053	3.2	26,635	3.2	95.9	101.3	97.3	97.8	109.1	—
貝類	54,362	7.6	56,178	7.5	59,899	7.4	62,397	7.6	62,731	7.4	96.8	93.8	96.0	99.5	105.7	116
冷凍魚	219,061	30.7	229,065	30.6	264,618	32.9	282,598	34.2	306,173	36.3	95.6	86.6	93.6	92.3	104.3	78
淡水魚	5,343	0.7	5,125	0.7	5,526	0.7	5,885	0.7	5,587	0.7	104.3	92.7	93.9	105.3	97.1	81
海藻類	3,025	0.4	3,223	0.4	3,386	0.4	3,405	0.4	3,144	0.4	93.9	95.2	99.4	108.3	111.7	116
加工品	219,964	30.9	236,872	31.7	245,977	30.6	248,427	30.1	247,150	29.3	92.9	96.3	99.0	100.5	100.4	96

表 2 - 3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当たり円・%)

年次 魚種	6年		5年		4年		3年		2年		対60年指数				
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	6年	5年	4年	3年	2年
総数	935	97.8	956	96.0	996	100.4	992	99.6	996	106.2	108	111	115	115	115
鮮魚	1,014	98.3	1,032	99.0	1,042	95.7	1,089	98.2	1,109	107.8	—	—	—	—	—
活魚	1,771	94.0	1,885	99.7	1,890	93.6	2,020	95.4	2,117	104.3	—	—	—	—	—
貝類	965	101.3	953	95.3	1,000	95.0	1,053	102.7	1,025	108.1	139	137	144	151	147
冷凍魚	1,021	101.0	1,011	94.0	1,075	102.1	1,053	98.2	1,072	106.9	105	104	110	108	110
淡水魚	1,402	102.5	1,368	109.6	1,248	96.2	1,297	98.5	1,317	99.9	107	104	95	99	100
海藻類	391	92.9	421	93.3	451	101.6	444	109.9	404	103.6	107	115	123	121	110
加工品	779	94.1	828	95.7	865	104.0	832	101.8	817	103.4	103	110	115	110	108

注：平成元年から活魚類を大分類とし、鯨類は削除、生鯨は鮮魚類へ、冷凍鯨は冷凍魚類へ区分した。

表 3 — 1 市場別・年次別取扱数量

(単位：トン・円)

市場	年次 区分	6 年		5 年		4 年		3 年		2 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	数量 前年比	762,829 97.5	100.0	782,782 96.9	100.0	807,920 97.0	100.0	832,532 98.3	100.0	847,319 97.7	100.0
築地	数量 前年比	666,076 97.5	87.3	683,173 97.0	87.3	704,169 97.1	87.2	725,178 97.0	87.1	747,355 95.6	88.2
足立	数量 前年比	57,980 93.7	7.6	61,890 93.7	7.9	66,051 98.8	8.2	66,833 100.5	8.0	66,508 92.3	7.8
大田	数量 前年比	38,773 102.8	5.1	37,719 100.0	4.8	37,701 93.0	4.7	40,521 121.1	4.9	33,456 243.4	3.9

表 3 — 2 市場別・年次別取扱金額

(単位：百万円・%)

市場	年次 区分	6 年		5 年		4 年		3 年		2 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	金額 前年比	712,947 95.3	100.0	748,203 92.9	100.0	804,962 97.4	100.0	826,251 97.9	100.0	843,694 103.7	100.0
築地	金額 前年比	626,411 95.4	87.9	656,884 92.8	87.8	707,680 97.0	87.9	729,761 96.7	88.3	755,004 101.7	89.5
足立	金額 前年比	50,571 90.8	7.1	55,717 90.6	7.4	61,467 102.5	7.6	59,949 103.5	7.3	57,927 99.9	6.9
大田	金額 前年比	35,965 101.0	5.0	35,602 99.4	4.8	35,815 98.0	4.4	36,540 118.8	4.4	30,763 224.6	3.6